

栃木精工、注射針で新工場

生産2倍、来年9月稼働

【宇都宮】栃木精工（栃木県栃木市、川嶋大樹社長）は、医療用注射針の工場を本社敷地内に新設する。2023年9月に稼働する計画。既存設備と合わせ生産能力を最大で現状比2倍の月間4000万本に引き上げる。投資額は非公表。世界人口の増加を背景に医療用注射針の需要が拡大し、輸出向けの受注増が続いているため生産能力を増強する。



本社敷地内に注射針用新工場を建設する

輸出受注増月400万本体制

新工場は3階建てで、延べ床面積は2000平方メートル。外径0.15ミリ・0.8ミリ、長さ3〜5ミリの医療用注射針の製造ラインを2本設ける。検査機

能を持つ注射針の自動組み立て機、梱包用のハンドリングロボットなどを導入し、一貫生産を目指す。クラス7のクリーンルームも設置する。

栃木精工は栃木県内に生産拠点が3カ所あり、医療用注射針は本社工場でのみ製造している。主に歯科麻酔や美容整形向けの汎用品のほか、薬液の無駄を

省ける新型コロナウイルススワクチン用「ローデッドタイプ」の注射針も手がける。受注は堅調で、一部の製品は3交代のフル稼働で対応している。川嶋社長は「新工場を設けて生産を平準化する。環境・社会・企業統治（ESG）を推進する観点からも、製造現場の負担軽減は欠かせない」と話す。

栃木精工はすべての医療機器の製造、販売ができる「第一種医療機器製造販売業許可」の許認可を取得しており、22年3月期の売上高は約40億円。従業員は270人。